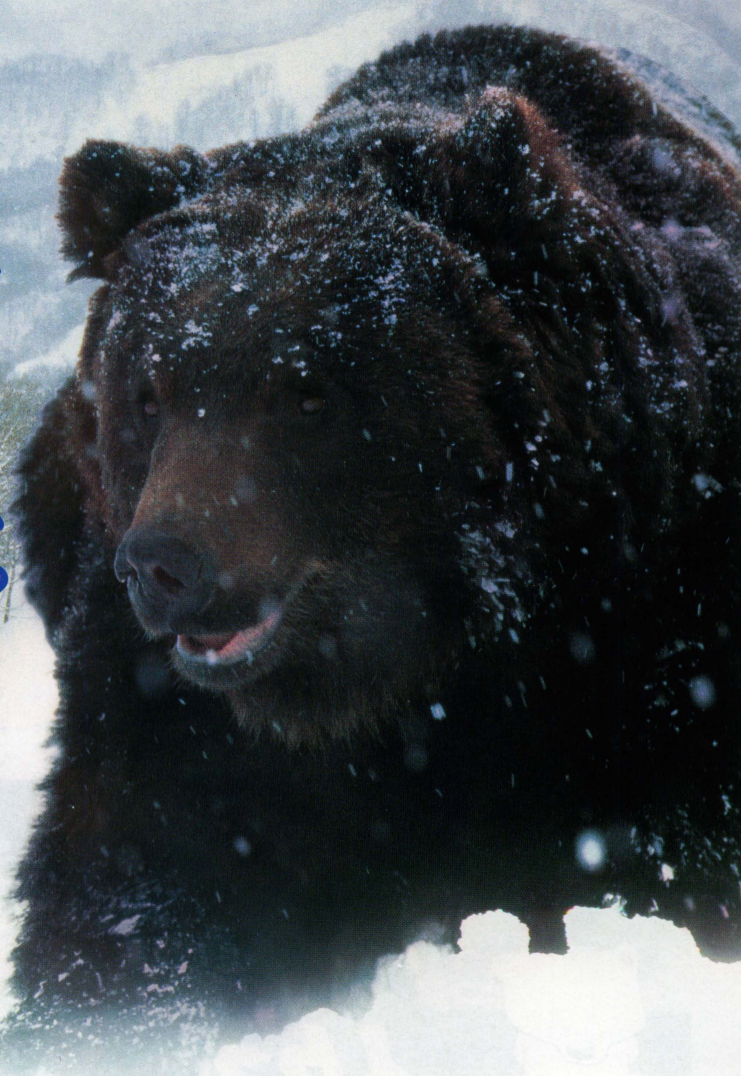


帰ってきては いけなかった!

あのなつかしい匂いを  
風が運んできても……



文部省特選  
(少年・青年・成人・家庭向)

BORN WILD, RUN FREE

自由に生きてこそ、野生。

イタズ



原作・監督・後藤俊夫 監修・戸川幸夫

田村高廣  
桜田淳子  
宮田浩史  
佐藤B作  
矢口高雄  
小島三児  
マテス・ゲオーク  
草薙幸二郎  
清川虹子  
由利 徹  
辰巳柳太郎

製作 ◆ 矢部 恒  
脚本 ◆ 小野竜之助  
撮影 ◆ 山崎堯也  
音楽 ◆ 佐藤 勝  
プロデュース ◆ 森山和之  
照明 ◆ 栗木原 毅  
美術 ◆ 春木 章  
録音 ◆ 本田 敦  
編集 ◆ 山田 隆  
助監督 ◆ 山下 龍次郎  
スタイル ◆ 山本 耕二

主題歌 ◆ イルカ  
作曲 佐藤イルク  
作詞 (ラウンレコード)  
ノベライズ ◆ 小野竜之助  
(山崎公雄社)



協力 ◆ 秋田県阿仁町・五城目町 / のほりべつクマ牧場 / 社団法人天然記念物北海道大保存会 / 清酒 太平山

製作 ◆ こぶしプロダクション / 配給 ◆ 東映株式会社 / 提携 ◆ 日本テレビ放送網株式会社 / 株式会社 電通

## ● 壮大なスケールで描いた 大自然と人の魂のふれあい!

イタズを主役に、今年的话题を独占しそうな壮大な愛のドラマが誕生した。「イタズ」とは、東北地方の狩人(マタギ)が、神からの授けものということで尊んだ「熊」の呼び名。そして、そのイタズがスクリーンの向うから、私たちに可愛く、切なく語りかけてくる。人間と野生動物が仲良く生きることは難しいですか——と。

人喰いと化した巨大な母熊を失った幼いイタズと、ひとりの少年の出会い。そして、イタズがみせるユーモラスなイタズラのかずかず。へびに噛まれたり、お酒を飲んで酔っぱらったり、ミツバチの大群に刺されたりと、大冒険を重ねるその姿は、抱きしめたいほどに可愛い。こうした大冒険をして、初めてイタズは大人になるのだが、大人になれば大自然の中へ帰さねばならない。

だが、一度人間になつたイタズは、再び人間が恋しくなるといふ。哀しい少年との別れから二年後、イタズは人々をおびやかす巨大な野生動物として姿を現してしまった。どんなに恋しくても、もう帰ってきてはいけなかったのに……。

可愛くて、温かくて、やがて哀しいこのドラマは、いつまでも観る人の心に、熱い感動と涙のぬくもりを残すことになるはずだ。



原作・監督◆後藤俊夫／監修◆戸川幸夫 製作◆こぶしプロダクション／配給◆東映株式会社

文部省特選 <成人・青年・少年・家庭 向>

## ● イタズラなイタズが 今年の人気ヒーロー!

動物たちはいつも、映画界の代表的キャラクターだ。その野生の姿の素晴らしさに、あるいは可愛いさに、私たちは惜しみなく拍手を送り、そして愛した。そんな中でもイタズが特にすごいのは、「野生動物、だということだ。しかも、日本では最強最大の野生動物。」

この映画を観たとき、これは日本版の「野生のエルザ」だと思う人も少なくはないだろう。自然と人間との両方の世界で生きたライオンのエルザがそうだったように、イタズもまた、人間に対するやさしさと、野生の姿との両方をみせてくれる。日本でも大自然を舞台に、こんなにスケールの大きい動物の映画が作られたということ、スクリーンを観て改めて感じさせられることだろう。

## ● 豪華キャストが結集し 波乱のドラマに感動を呼ぶ!

主役はイタズのゴン太(?)だが、そこはなんといいても、まだ新人。ついつい暴走してしまいそうなところを、ベテラン名優たちががっちりカバー。円熟した演技にますます磨きのかかる田村高廣をはじめ桜田淳子、辰巳柳太郎、清川虹子、由利徹、佐藤B作など多彩なキャストが、イタズをとりまく感動的な人間ドラマを展開する。少年役には、1500人のオーディションの中から宮田浩史君が選ばれたが、イタズとの純粋な魂のふれあいは、まさに名演。そして、名作「マタギ」でベルリン



映画祭ユニセフ監督賞をはじめ、内外の数々の賞に輝いた後藤俊夫監督がメガホンをとっている。さらに、日本動物文学の権威・戸川幸夫氏が監修に加わりこの大作に格をそえる。また、あのイルカが、主題歌「イタズ」をクラウンレコードからリリースするなど、すでに「イタズブーム」は完全に上昇気配だ。

9月感動のロードショー (特別鑑賞券 一般1,200円・学生1,100円・小人800円発売中!)  
● 劇場窓口でお買上げの方に「イタズ」バッジプレゼント!!

渋谷東急  
(407) 7029

新宿東急  
(200) 1981

新宿東映パラス  
(351) 3061

池袋  
テアトルダイヤ  
(983) 9793

渋谷東映パラス  
(841) 8722

丸の内東映パラス  
(535) 4740

横浜オスカー  
045(261)7378